

たんちよう

JAくしろ丹頂
広報誌

vol.132
2018.10

くしろ丹頂

豊穡の秋!! デントコーン収穫



(音別町 川西)

CONTENTS

- 北海道胆振東部地震による停電等に係る被害状況報告 — 1
- 農協法公布記念日にあたって — 2
- 第29回JA北海道大会に係る組合員組織討議並びに第3次中期計画策定に係る組合員組織代表者会議 — 3
- JA女性部鶴居支部野菜即売会
Aコープおんべつ店創業祭 / 新人職員研修 — 4
- 日本獣医生命科学大学の学生による酪農実習体験感想文 — 5~12
- 「タオルを送る運動」メッセージ — 13
- 乳質改善PJ情報局 — 14
- 普及センターだより — 15
- JAグループ通信 — 16
- JA共済からのお知らせ — 17
- 金融課からのお知らせ — 18
- 理事会報告/生乳生産実績/信連研修生のご紹介 — 19



紅葉も色づき秋も深まりました!

胆振東部地震を起因とした 北海道全域における大規模停電が発生!! 当JAでも生乳廃棄等 大きな被害を受ける!!

「この度の地震により被災された皆様、その後の停電や断水で深刻な状況に陥り被害にあわれました皆様に、あらためて心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧及び復興を心よりお祈り申し上げます。」

9月6日、午前3時7分に発生した北海道胆振東部地震は震度7を記録し、苫東厚真火力発電所の施設等が破損・停止したことにより、北海道全域で大規模停電が発生しました。

この停電により、当JAにおいても日常業務である搾乳作業等に甚大な被害を受けました。電力が復旧し、乳業メーカーの生乳の受け入れが再開されたのが7日の夕方となり、営農部署担当職員による農家巡回聞き取り調査等により算出された廃棄・未搾乳等による被害乳量は、約450tに及びました。

停電の間、非常用発電機を所有する農場では自家発電等により対応していましたが、対応出来なかった農場では乳房炎等の疾病が発生するなど、より大きな打撃を受けました。災害発生等非常時への備えとして、発電機の導入に関わるご相談を常時受け付けておりますのでご相談下さい。

今後におかれましては、停電被害の影響による乳房炎等の疾病が完治し、一刻も早い生乳生産の回復を強く望むとともに、災害対策等を組合員の皆様とともに検討して参りたく、より一層のご協力をお願い申し上げます。

なお、関係機関からの災害支援対策等については、詳細がわかり次第別途情報提供させていただきます。また、当JAと致しましても、独自対策を現在検討中でございます。

農協法公布記念日にあたっての組合員・役職員へのメッセージ

北海道農業協同組合中央会 会長 飛田 稔 章



このたびの災害により被害を受けられた皆様ならびにそのご家族の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

一日も早い復旧・復興へ向けて、JAグループ北海道は組織を挙げて全力で支援に取り組んでまいります。

さて、昭和22年11月19日に農業協同組合法（農協法）が公布され、今年で71年を迎えました。

戦後の食糧不足の混乱期に、農業者の協同組織の発達を通じ、「農業生産力の増進」と「農業者の経済的社会的地位の向上」を図り、国民経済の発展に寄与することを目的として、農協法が制定され、農協が設立されました。

農協は「農業者による農業者のための組織」であり、協同組合原則に掲げる「自主・自立」「民主的運営」の基本に立ち、相互扶助の精神のもと、幾多の困難な状況を乗り越え、組合員の皆様の営農と生活の安定並びにより良い地域社会の実現を目指し、総合事業を展開しながら今日に至っております。

例えば安全・安心な食品の生産と、豊かな生活に役立つ購買品の供給、地域の豊かな暮らしと経済活動のために寄与する金融事業、総合的な暮らしの保障のための共済事業、健康な日常生活を営むための医療・福祉事業のほか、地域社会に貢献するための様々な社会的取り組みも行なわれています。

地震や風水害による大規模災害が発生した際には、各協同組合が物資の支援、ボランティアの派遣、募金活動等を展開することにより、被災地域の復旧・復興支援に大きな役割を果たしております。

本年9月の災害時にも、組合員・JA・連合会等の間における農業機械・発電機等の融通や、被災地への人的・物的支援、被災地農産物の選果受入など、組織内・外を問わない助け合いの精神による支援活動・行動に対し、敬意とともに、協同

組合の力を改めて認識させて頂いたところです。

このように協同組合は社会と地域の人々の暮らしのために、永年に亘って多くの分野でその役割を發揮してきているのです。

そのような中、2016年に「協同組合の思想と実践」がユネスコ無形文化遺産に登録され、更に本年4月には、我が国の農協、漁協、生協、労働金庫、森林組合等の協同組合が、協同組合間の連携によって力を結集し、地域課題の解決を目的として日本協同組合連携機構（JCA）が発足したところです。

また、第29回JA北海道大会では、前回大会で設定した将来ビジョンである「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』の実現」を継承し、「農業所得の増大と、多様な担い手の確保・育成」と「次代につなげる協同組合の価値と実践」に向けて、JAグループが一体となって取り組むことと致しました。

農業協同組合に集う組合員、役職員の皆様は、このように世界的に評価され、社会的意義のある協同組合の仲間であることを誇りとしながら、協同活動の輪（食と農でつながるサポーター550万人づくり）を広げて頂きたいと考えております。

このことが新自由主義経済への対立軸としての協同組合の存在意義を高め、永年に亘り先人が築き上げた地域農業並びに地域社会の基盤をさらに発展させ、持続可能な農業へと繋がるものと確信しております。

最後になりますが、JAグループ北海道は、協同組合の理念と精神を事業の拠り所とし、今後とも組合員の皆様が夢と希望を持って営農と生活が続けられる環境を整えること、地域農業とJAの発展に全力でサポートすることをお誓い申し上げます。農協法公布記念日にあたってのメッセージと致します。

「第29回JA北海道大会」に係る組合員組織討議並びに第3次中期計画策定に係る組合員組織代表者会議を実施



9月14日、本所で「第29回JA北海道大会に係る組合員組織討議並びに第3次中期計画策定に係る組合員組織代表者会議」が行なわれました。

当JA青年部・女性部・女性部フレッシュユミズ・酪農振興会の各代表・JA役職員計25名が参集し、今年11月に開催される「JA北海道大会」へ向けた組織討議資料の素案について、JA北海道中央会根釧支所久坂真次長から説明がありました。

JA北海道大会は、JAグループの意志を結集し、組織・事業機能の強化を図るため3年毎に開催されております。今回の大会は、前回大会で設定されたJAグループ北海道将来ビジョン「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』の実現」に向けた改革プランのさらなる加速を目指し、基本目標及び重点取組事項を示し、目指す方向性に対する意識・目線を合わせるための大会と位置付けられます。

大会議案である

1. 協同の力で「農業所得の増大」と「多様な担い手の確保・育成」を実現

2. 次代につなげる協同組合の価値と実践

に関する基本目標及び重点取組事項等について協議しました。今回出された貴重な意見等は項目ごとに集約し、JA中央会へ報告致しました。

あわせて、農協財務基盤の強化と事業の推進による組合員貢献と農家経済の安定化を図るための第3次JA中期計画策定に係る検討会議を実施し、組合員意向調査等を踏まえた「地域農業・JA経営基本目標と重要課題」について協議しました。

各代表者からは「協同組合の精神を次世代へ継承していく事、組合員の真の声を見極め農民の組織である事を忘れてはならない、農協離れなど組合員・地域に対する信頼を失う事なく合理化を進めるべき」等多くの意見が出され、今後計画策定に向け更に検討して参ります。

色とりどりの自家産野菜・大好評!!

～ J A 女性部鶴居支部「野菜即売会」～



どの野菜も手に取ってみたいくなる出来栄

9月12日、J A 女性部鶴居支部はAコープつるい店前で野菜即売会を開催しました。毎年開催しているこの即売会は、部員達が日頃より丹精込めて作った自家産野菜を格安で販売しております。

館山順子支部長は、「今年は、天候が悪い時期もあり心配しましたが、害虫の

発生も少なめで出来は良い方でした。部員達で即売会に出せるものを少しずつ持ち寄り協力してやっております。天候に左右される面はありますが、安全・安心な野菜作りに部員達とともに取り組んで参りたい。」と話して頂き、即売会は大盛況に終わりました。



本まぐろ解体実演販売! 美味しそう!



賑わうテント前

9月26日、Aコープおんべつ店前では、年に一度の創業祭が行なわれ、販売商品が、通常価格より格安で購入できるためAコープ前に設置されたテント前は多くのお客様で賑わいました。

**Aコープおんべつ店
創業祭 盛況!!**



みんな真剣です!

9月26日、本所で平成26年度以降の採用職員9名を対象とした新人研修を実施しました。釧路農業改良普及センター釧路中西部支所 沖田和樹 地域係長を講師に迎え、「酪農の基礎」①関係機関との連携②酪農家の一年③乳牛の特徴④搾乳作業等について学びました。

今回の研修を踏まえ、10月1日から農場実習を実施し、実習を終えての体験記は次月号に掲載させて頂きます。

新人職員研修 実施

貴重な酪農実習体験を終えて・感想文

※8月20日～9月8日、日本獣医生命科学大学の学生が来所し、各農場へ実習に入りました。実習を終えた感想文を掲載致します。

受入先・菊地孝範農場



佐藤 魁 さん

私は、今まで見知らぬ土地で見知らぬ人の家に泊まり、さらにその場で慣れない仕事をしながら生活するという経験は当然無く、10日間という短い時間ですが、出発前は本当に10日間もやっていけるのかという不安でいっぱいでした。また、この実習に参加することが決まったのも3週間前程であり、どのような所でどのような方達と、またどのようなことをしていくのかという実習の概要もあまり知らされず、頭の中ではつきりとしたイメージが浮かんで

いない中で当日を迎えたため、その先の想像がまったくできない中での参加となりました。

そのような不安の中でしたが、菊地農場の方々にあたたかく迎え入れてもらいました。見たことのないシステムを使った搾乳を主とし、牛舎の掃除の仕方や、エサやりの方法、何故そのようなエサが使われているかなど詳しく教えていただきました。

一日の主な作業である朝晩の搾乳は、ミルクングパーラー方法が使用されていました。学校の付属の農場ではパイプライン方法しなく、ミルクングパーラーは見たことがあります。そのため、牛が勝手に搾乳する場所へ入っていく様子や、しゃがまなくても搾乳ができるように

人間が牛よりも低い位置で作業できるようにしている構造など、とても画期的であると感じました。

搾乳以外で印象に残っているのは、人工授精です。実習中2度程人工授精を見学させていただく機会がありました。過去に1度直腸検査の体験をしたことがありましたが、その時は、何がどこにあるのかまったくわからなかったのですが、人工授精師さんは、30秒程で発情しているかをたしかめ、また30秒程で種付けを終わらせており、その速さに驚きました。

この実習中、言われたこととで1番心に残ったのは、「牛にやってあげられることはたくさんある。でも全部やっていたら人間の方が疲れてしまう。」です。大

を学んでいます。それをすべて実行するのではなく、気候や施設、従業員などの環境や、社会で求められている事を考慮した上で、臨機応変に対応していかなくてはいけないと感じました。

受入先・松下雅幸農場



土田 瑞穂 さん

私は、松下農場さんで10日間実習させていただきました。搾乳では準備から片付けまで一通り行いました。最初の頃は、次は何をしたら良いのかや実際に自分でやってみてこれかちゃんとできているのか等戸惑ったりもしました。特にミル



カーの装着は久しぶりで乳首同士が近すぎて取りつけにくかったり、蹴り上げる牛もいたため、装着するのに時間がかかってしまったり、もう一度装着し直すということもありました。しかし、農場の方の丁寧なご指導のおかげで、日々回数を重ねることで上達することができました。

また、松下農場さんはつなぎ牛舎で、以前実習させていただいた農場さんがミルキングパーラーだったため、実際に搾乳作業を行うことで、大学の講義だけではわからなかった長所や短所を理解することができました。哺乳では、哺乳ロボットが導入されており、初めて見たこともありとても感動しました。哺乳ロボットは、コンピュータの制御で一定の温度や濃度のミルクを

作ることができると、子供の発育向上だけでなく、作業負担を減らす上でも酪農家にとって非常に重要なものなのだと改めてわかりました。

実習の中で、獣医師さんの往診に立ち会うことができました。心拍数を計ったり、点滴をうつ等、産業動物獣医師の仕事を見学することができ嬉しかったです。今回の実習で、松下農場の方々に大変お世話になりました。作業方法や質問などに真摯に教えて下さいました。生活面ではとてもおいしいお食事を用意して下さい、作業以外の面でも温かいお心遣いのおかげで大変貴重な10日間となりました。今回の北海道実習の経験をこれからの大学の講義に生かしていきたいと思えます。10日間本当にありが

とうございました。

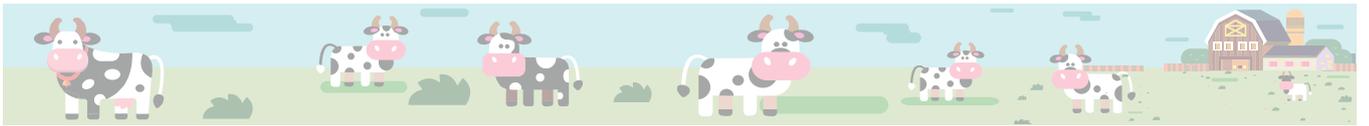
受入先・(有) 鶴翔



高澤 彩花 さん

私は、今回初めてロータリーパーラーでの搾乳や法人経営の牧場の実習を行いました。規模が大きく働く人数の多さに圧倒されました。作業も9時からの外作業と昼の搾乳・哺乳といった今まで経験したことのない時間帯だったので、なかなか体が慣れずしんどいと思う時もありました。ですが、社員の方々が優しく教えて下さったおかげで最後まで頑張る事が出来ました。また、初日から会長の家

族の方々が温かく迎え入れて下さり安心して10日間を過ごす事が出来ました。ロータリーパーラーでの搾乳は、円の中で作業をしていたので帰ってからもずっとめまいを起こしてしまいました。あの中で毎日のように仕事をしている社員の方々はすごいと思いました。初めてのチーズ作り体験もとても貴重で印象に残っています。牛乳がだんだん固まって豆腐状になり、チーズへと変化していく姿に感動しました。出来立てのチーズを食べる事が出来るとても良い経験になりました。ただ、この実習で心残りだったのが体調不良のため作業が出来ず出産の瞬間を見れなかったことです。今までに1回しか見た事が無かったのでとても残念でした。また、今まで色んな



思います。

受入先・(有) 鶴翔



伊藤 舞子 さん

牧場で実習させて頂いて初めて牛からのウイルス感染による胃腸炎を起こしました。酪農の仕事をするにはこのようなことを乗り越えていかなければならないと思いましたが、そのせいで、たくさんの方々に余計にご心配・ご迷惑をおかけしました。本当に申し訳ありませんでした。

色々ありましたが、初めての事をたくさん経験出来て充実した10日間を過ごす事が出来ました。本当にあつという間でした。最後に、会長の家族の方々をはじめ、鶴翔の社員の方々、チーズ作りでお世話になった方々、夢牧場の方などたくさんの方々に支えられてこの実習を行うことが出来ました。本当にありがとうございます。この経験を将来に活かしていきたいと

私は、この10日間、鶴翔さんで実習をさせて頂きました。始めた10日間も遠い北海道の地でファームステイをすることは少し不安でしたが、挨拶をしたときから笑顔で迎えていただいて、緊張がほぐれました。

仕事に関しては、2日目だけ4時半から16時までの作業で、3日目からは9時から16時までの作業をさせて頂いたかったです。9時からの昼の外作業では、主に子牛のハッチの藁替えや

子牛に水や濃厚飼料を与えたり、水槽掃除や除糞を行ったりして、14時からは哺乳と搾乳の二手に分かれて作業をしました。今までの実習先では子牛は数頭しかいなかったのですが、鶴翔さんでは、来たときに約38頭ほどだと聞き、非常に驚きました。9日目には子

牛のお産を手伝うことができてとても嬉しかったです。搾乳に関しては、初めて体験するロータリーパーラーだったので少し緊張しながら作業をしていました。搾乳では、消毒と前搾り、乳頭を拭くこととミルクをつける作業をしていましたが、ミルクをつけるときなど、牛が足で取ろうとしたり乳頭がクロスしていたりすると手間取ってしまったり、それによってどんどん流れていってしまったり

と少し焦りながらの作業になってしまいましたが、他の従業員さんに助けていただいていた。

鶴翔さんで実習させていただいている中で、従業員がとて多く、それぞれが仕事を分担されているところがすごく新鮮だと感じました。今までの実習先はすべて個人経営だったこともあり、搾乳も哺乳も外作業も1日中同じ人達で作業していたので、ここの搾乳と哺乳を分けていたり、朝、昼、夕とシフトが組まれている体制が、会社ならではのと思いました。従業員のみなさんはとても優しく、たくさん話しかけてくださってとても居心地が良かったです。少し寂しいです。特にたくさんお世話になった山形さんは、外作業のときも哺乳のときもいつ



も教えてくださり、子牛への接し方など見ていて勉強になりました。ありがとうございます。ありがとうございました。あとは1番

気にかけていただいた溝口さん、北海道のことも子牛のことも搾乳のことも教えていただいたり、個人的なお話もたくさん話していただいたり、話しかけていただくのがとても嬉しかったです。ありがとうございます。そして1番お世話になった会長さんと奥さん、いつも美味しいごはんを用意していただいたり、チーズ作りに1日中参加させてもらったり、たくさんお話をしていたいたり、送り迎えや夢牧場の見学など、10日間本当にありがとうございました。

この北海道での実習、坂本さんのところでファームステイができて、また鶴翔

さんで実習できて良かったです。この経験を今後、多くのところで、または将来に活かしていきたいです。

受入先・(有)鈴木農場



高野 奈々美 さん

私は、今回鶴居村の鈴木農場で実習をさせていただきました。1日目は子牛の哺乳の仕事を見学しつつ少し手伝った。子牛のミルクは2ℓ、4ℓ、5ℓ、6ℓをバケツで作るものと、2ℓ、4ℓを哺乳びんに入れるものがある。哺乳の一連の流れは、まずそれぞれの子牛のカーフハッチに水を入れて置いてあるバケツを回収

して、殺菌20という塩素系の薬をお湯にまぜて洗い、その後洗ったバケツにその子牛にあつた量のミルクを入れてカーフハッチにならべる。生まれたばかりの子牛は哺乳びんでミルクをあげる。子牛がミルクを飲み

おわったらまたバケツを回収して、まず乳脂とーるというアルカリ系の薬をお湯にまぜて洗い、その後殺菌20で洗い、お湯で流したものをカーフハッチにならべて水を入れておわりである。搾乳はまずディップングをして、前しほりをして、そのあとタオルでふいてミルカーをつけてしほりおわったらもういちどディップングをしておわりで、ミルカーでしほっている時間は片側のミルカーをあらったりしていた。日曜日には、朝の作業が

おわってから観光につれていってもらった。阿寒湖では船にのつてまりもを見にいき、こんなに大きいきりぎりしを見るのははじめてだったのでとても貴重な体験だった。

この10日間で普段の生活ではすることのない作業や場所にいけて勉強になった。

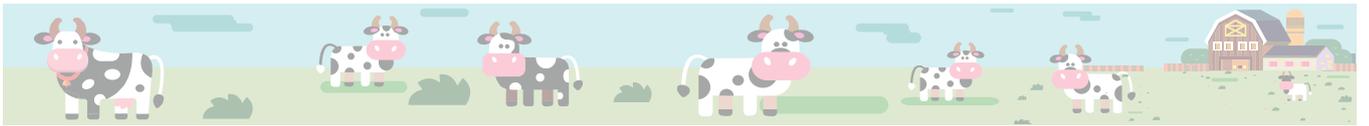
受入先・(有)鈴木農場



清水 春衣 さん

私は、8月20日から8月29日にかけて(有)鈴木農場さんの元で実習をさせていだきました。

今までも北海道において実習をさせてもらったこと



があったため、その経験を活かして搾乳体験・お手伝いをする事ができました。また、今までしたことのない哺乳のお手伝いをするこ

とができてとても良い経験になりました。朝の作業は搾乳で、お昼は水槽そうじ、夕方の作業は哺乳というサイクルで実習し、最終日には慣れてきたので、従業員

のみなさんのお力になれていたら良かったなと思っています。みなさんがとても優しく、細かく、おしえて

くださったため、多くのことを知ることができ、スムーズに行動することができました。

搾乳の作業においては、薬をつけ、前しほりを行い、ふいて、ミルカーをつけるという一連の作業を全てさせてもらいました（搾乳担当の方と）。哺乳において

は、計17頭（最終日現在）に水やミルクをあげる作業を哺乳担当の方と一緒にさせていただきました。

普段、することのない作業を酪農本場の北海道でさせていただき、大変貴重な体験をさせていただきました。

た。ありがとうございます。今後の学校生活において、実習で学んだことを活かしていこうと思います。

受入先・(有)協栄農場



鈴木 杏南 さん

私は、幌呂地区の協栄農場さんで実習をさせていただきました。北海道での実習は2度目だったので

今回は搾乳だけでなく、哺乳などいろいろなことを体験させてもらうことができました。特に印象に残っているのはウシの分娩に立ち会えたことです。目の前で

新しい命が誕生するのを見れてとても感動しました。酪農家の仕事は単純で同じようなことの繰り返しだ

と思っていました。搾乳ではそのウシが搾乳中おとなしくできるウシなのかや乳

が出やすいウシのかなど1頭1頭ウシの特徴を把握して行きました。また、牧草の切り込みでは、切り残し

がないように計算してトラクターを動かしているという話も聞きました。酪農家は自分が想像していた以上に

たくさんの知識と確かな技術、細かいところまで気を配る力が必要な仕事だと感じました。

実習の他にもファームステイを受け入れてくださった藤澤さんや協栄農場の従業員の方にはとてもやさしく接してもらえてとても感謝しています。笑いの絶えない家族や職場で自分まで

笑顔ですぐすことができた。実習前に自分がやりたいと思っていたことはすべてやりつくしたように思

います。今回の実習をいかにこれからの勉強をがんばっていかうと思

っています。ありがとうございます。

受入先・(有)協栄農場



奥原 恵理 さん

私は、鶴居村にある協栄



農場で実習させて頂きました。お世話になった藤澤さん夫婦、従業員の皆さんはとても気さくで優しい方々でした。

実習中の1日の主な作業は、朝4時半からの搾乳で始まります。搾乳牛240頭の牛乳を搾るために朝早くからの作業で、最初は眠くて大変でした。搾乳作業中驚いたのは、ライナーをつける時と前搾りの手早さ、特にすべての牛の特徴を覚えていらつしやることでした。この牛は2本乳、この牛しぶいから先に搾ってほしい、など搾乳中の指示の的確さ、私が頑張っても搾れなかったところをいとも簡単に前搾りされていて、ただただ驚くばかりでした。前搾りのやり方やコツも教えて頂けたので後半の方では最初に比べて上手くできるよう

になったと感じました。

午後は子牛に哺乳をすることが主な作業でした。産まれたばかりの子牛に初乳をあげたりする過程で牛の可愛さも感じる事ができました。初日に牛の分娩に立ち会えたことや、人工授精を間近で見ることができたこと、直腸検査等をさせて頂くことができたこと、たくさん貴重な体験をさせて頂きました。また北海道ならではの、野生動物を間近で見ることができたこともとても貴重な体験でした。大変なこともありましたが、それ以上に学べる事が多く、充実した9日間でした。

協栄農場の皆さん、9日間本当にお世話になりました。北海道で、協栄農場で実習することができて本当に良かったです。ありがとうございました。

私は、林牧場で10日間実習を行いました。同じ農協で実習を受けた学生は私を除き11人いましたが、お世話になった林牧場は皆の実習先から少し離れた白糠町でした。以前、東京の牧場での実習経験はありましたが、北海道では初めてであったため、正直なところ不安でした。釧路に行くのも初めてで勝手が分からないう状態でしたが、牧場の皆さんは優しく受け入れてくださり、不安もすぐになくなりました。

実際に実習を行って、搾

受入先・林 稔幸 農場



高橋 萌 さん

乳以外は牛を放牧しているのが衝撃的でした。搾乳は、放牧中の牛を搾乳舎に繋ぐところから始まりました。牛を繋ぐ場所は決まっていたのですが、牛自身が自ら所定の位置につく様子も非常に印象的でした。乾乳牛が多かったため、搾乳牛の頭数は少なかつたものの、流れを理解するまでに時間がかかりました。

作業だけでなく沢山の方と関わる事ができ、人の暖かさに感動しました。牛の市場など色々なところに連れて行ってもらい、以前から興味があった、家畜人工授精師として働くことも視野に入れて将来のことも考えることができ、とても良い経験ができました。



受入先・(株)敬和ファーム



小林 斐奈子 さん

私は、成田さんの牧場「敬和ファーム」で20日間実習をさせてもらいました。本来10日間の実習ですが、私の要望で20日間も受け入れてくださった成田さんには、とても感謝しております。敬和ファームには、午後の作業が始まった頃に着きました。荷物を置いて準備をしてから牛舎に連れていってもらいました。今までの経験もあり、すぐに搾乳をさせてもらうことができました。この牧場は、ミルカーを自分で持ち運ぶという、今まで体験したこと

のないつくりになっていました。しかし割とすぐに慣れ、他の牧場と変わりなく作業することができました。私が行った頃（初めの頃）は気温や湿度が高く、さらにエサを変えたばかりというところで、乳房炎の牛が多かったです。その頃は1日1頭乳房炎にかかる勢いでしたが、最後の方は落ち着いてきました。

作業は前半4時間、後半4時間の計8時間で、間に6時間の休憩時間がありました。毎日8時間も作業していると、思えないくらい時が早く過ぎ、1日もあっという間に終わりました。後半の方に、獣医さんが来て、妊娠鑑定や出産後の子宮の状態を検査するフレッシュアップ検査がありました。エコーを用いて診断していました。牛のしっぽを抑える手伝い

をしつつ、説明をしていたことができました。とても分かりやすい説明で頭にすぐ入ってきました。やはり現場では学ぶことが多いと思いました。ホクレンの方が来た時には、少しお話をさせてもらいました。私は飼料会社に就職したいので、とても貴重な時間でした。北海道への就職は寒さに弱いため考えていなかったのですが、この実習に来て北海道への就職も視野に入れはじめました。

従業員の方たちはとてもおもしろく、仕事もていねいに教えてくださったので、割とすぐになじむことができました。奥さんも毎日、たくさんのおいしいご飯を用意してください。とても快適な生活をさせてくださいました。とても居心地が良い牧場でした。

た。成田さんはとても顔が広く人脈もある人でとても尊敬します。そんな方の元で実習ができて本当に良かったです。学生最後の実習、とても充実したものとなりました。

受入先・(株)佐藤牧場



小林 紗彩 さん

私は、(株)佐藤牧場で、8月20日から29日まで実習を行いました。私は今まで、牛の牧場での作業はほとんど行なったことがなく、8月ど行なったことがなく、8月のはじめに行った大学の農場実習で少し作業をした程度だったので、とても緊張していました。



初日の8月20日は、サイレージのビニールかけをしました。あまり頻繁に行う作業ではないそうなので、お手伝いできてとてもよかったです。とても広い土地にいったいに積み上げられた牧草は見たことがなかった。北海道に来たんだという実感が湧きました。牧場での作業は糞かきと搾乳ロボットの説明をしていただきました。大学の講義で出てきた搾乳ロボットを実際に見ることができ、その高性能さに感動しました。牛1頭1頭が厳密に管理されていて、酪農も機械化が進んでいるということがよくわかりました。

2日目以降は朝はバーンスクレーパーが届かない場所の糞掃除、牛舎通路の掃き掃除、哺乳、昼は糞掃除、夕方からは糞尿溝に落ちな

かった糞等を落とす作業、哺乳、牛舎通路の掃き掃除を基本として、その間に様々な体験をさせていただきました。

除角の見学や注射、人工授精の見学、牛に薬を飲ませるなど、あらゆる貴重な体験をさせていただきました。除角は、牛が痛がって暴れたりしていかわいそうだと思いましたが、これから人間と関わっていくためには必要な作業であるということが、牧場で毎日作業をしていてわかりました。子牛に注射もしましたが、牛のためにも1回で終わらせることができるように、思い切って針を刺すことが大切だとわかりました。私は1回目は躊躇してしまって失敗してしまったので何回も針を刺すことになってしまい、牛に申し訳ないこ

とをしまいました。

また私が実習を行っている間に3頭の子牛が生まれ、2頭は出産に立ち合うことができました。今まで文章や写真、動画などでしか見たことがなかった出産を実際に見ることができ、とてもよかったです。

他の牧場や牛の市場、釧路の観光地に連れて行っていただいたり、美味しいものを食べさせていただいたり佐藤牧場での実習以外にも様々な体験をさせていただきました。

今回の実習では、今まで大学で学んだことを実際に見たり、知らなかったことを新しく学んだり、とても勉強になる実習でした。これから、牛乳を飲むときは今回の実習を思い出しながら飲みたいと思います。ありがとうございました。



実習期間中、お世話になり大変ありがとうございました!!

「タオルを送る運動」メッセージ

パルシステム生活協同組合連合会「こんせん72牛乳」利用者の方々より、酪農生産者の皆様へ贈られたタオルとともに、お礼のメッセージを頂いております。ここではその一部を数回に分けてご紹介させていただきます。



メッセージを贈ろう

。おいしい牛乳をありがとうございます。
この牛乳が 飲め続けられるよう、
少しでも早くタオルを送りますので
使って下さい。(牛乳が苦手な人がこの牛乳を飲め
好みに合いました!!)

静岡 富士 センター (3) 枚のタオルを贈ります

メッセージを贈ろう

いつもおいしい牛乳ありがとう
ホットミルクにしたり、こー茶に
いれたりしています。これからも
牛乳をたくさん飲みます!

静岡 センター () 枚のタオルを贈ります

メッセージを贈ろう

いつも おいしく飲ませていただきはす
酪農というのも大変な仕事なんでしょうね
安心して美味しく飲む牛乳 いつもありがとうございます
これからも よろしくお願ひします。

茨城 下妻 センター (3) 枚のタオルを贈ります

メッセージを贈ろう

妻の実家が牛乳販売店のため、酪農家の方と
つながりを普段から感じています。
いつも美味しい牛乳をありがとうございます。
これからも沢山牛乳を飲んで応援していきます。

茨城 水戸 センター (5) 枚のタオルを贈ります

メッセージを贈ろう

28年間、こんせん72を飲み続けています。
大好きです。美味しく。もう、我が家には
欠かれません! とくに、酪農家の皆さん
お身体を大切に。おいしいこんせん72 これからも
よくお願ひします。

東村山 センター (2) 枚のタオルを贈ります

メッセージを贈ろう

日本のおいしい牛乳をいつまでも飲み
たいので、毎日のお世話は大変かと思
いますが、がんばっていただきたいです。

東京 東村山 センター (4) 枚のタオルを贈ります

メッセージを贈ろう

酪農のお仕事、毎日お忙しくご苦労
の多いことと存じます。お陰様で
安心して牛乳、ヨーグルトがいただ
けます。感謝しております。お願ひして下さ
います。

東京 足立 センター (1) 枚のタオルを贈ります

メッセージを贈ろう

只今骨礼の注意の私には、こんせん72が
主人もおいしい牛乳に満足しています。手回りが
お仕事なので、体と大切にしたい。今後も
こんせん72をよくお願ひします。

福島 いわき センター (5) 枚のタオルを贈ります



乳質改善プロジェクト

乳質改善PJ情報局

J Aでは生乳の量産のため、品質の安定化により廃棄ロスを削減し、乳代単価及び農家所得の向上を図り、酪農経営の安定化に寄与することを目的に【乳質改善プロジェクト】を立ち上げています。

酪農家にとって乳質管理は気の抜けない課題です。J Aなどから送られてくるバルク乳の体細胞数の値が、自分の期待通りにコントロールされているかは、必ずチェックされているかと思えます。

そこで、この乳質対策の連載では、農場の乳質管理について様々な技術やノウハウなどを適度に織り交ぜながら、マニアックな知識に陥らないよう、現場で役立つ情報を「乳質改善PJ情報局」で提供していきたいと思えます。よろしくお願ひします。

**バルク乳の体細胞、
どうコントロールする？**

バルク乳の体細胞数が30万を超過した、あるいはかなり留意

しないと超過するリスクが高そうな時、手っ取り早く対応するには、体細胞数を高くしている乳牛と乳房区を特定し、バルクに投入しないようによつこすることです。

もちろんこの手法は、当面を乗り切るには有効ですが、そこには必ず廃棄する生乳が生じます。そのため本来得られるべき収入が目減りすることになります。ごく少量であれば致し方ない面もあるかもしれませんが、1日30kgを超えるような産乳量のある乳牛の生乳が、一滴も出荷できない、あるいは何頭もバケツなどで対応しなければならぬとなると、経営に与えるダメージも大きくなります。

対処ではなく、予防がメイン

起こってしまった乳房炎は、生乳を出荷せず、獣医師などと相談しながら治療などの処置を施さなければなりません。本来の乳質対策というところで取り組むべきは「いかに新規の乳房

炎発症を抑制するか」にあります。そのため必要となってくるのは自分の農場で発症している乳房炎に関する情報です。どの時期（季節・産次・泌乳ステージ・グラスの切り替わりなど）にどんなタイプの乳房炎が起き

やすいかということになります。例えば年中パドックや放牧に出されている農場で冬期間にS A（黄色ブドウ球菌）の乳房炎がやすい、あるいは泌乳ピークに向かって稼ぐ牛に環境性乳房炎が散発しやすくなる本乳にもなりやすい…といった内容は極めて有効な情報で、今後の乳房炎コントロールに優れた効果を発揮できる高い可能性があります。

**マニアックにならず、
結果を得るノウハウ**

農場で乳房炎関連のデータ整理や収集は手間がかかりますが、しっかりと記録されている方も少なくないでしょう。乳検を行っている方なら「牛群」の乳

検成績にもコンパクトにまとめられています（この解説は後号で）。新規の乳房炎をいかにコントロールするか…、状況をしっかりと抑えた情報を活かすためにも是非J Aなどにご相談ください。（続く）

※情報提供は釧路農協連
永井酪農技術支援室長より

【乳質改善プロジェクト構成員】

- J Aくしろ丹頂
- 鶴居村・白糠町・釧路市
- NOSA
- 普及センター
- ホクレン釧路支所
- 釧路農協連
- よつ葉乳業(株)根釧工場
- ミルカー点検実施業者



GAPの有効活用
リスクを低減する
ルール作り

GAPとは、一般的に「農業生産工程管理」と呼ばれ、換言すると「農畜産物を作る際に適正な手順やモノの管理を行い、食品安全や労働安全、環境保全を確保する取組み」のことです。日常的なリスク管理として、GAPを「行う」ことの取り組みを紹介します。

GAPでリスクを管理

農業を行っていく上で考えられるリスクには、異物混入などの食品安全のリスク、農機具による事故などの労働安全のリスクなど様々なリスクがあります。これらリスクの危害要因(図1)を特定し、対策を決め、実行しながらその効果を確認します。必要に応じ見直しながらリスクを低減する手法がGAPです。GAPは、改善を続けることで生産性の向上や安全の強化につながります。当然、法令も遵守しながら、自分達の農場に最も適したルールを作成します。

GAPの5つの目的

GAPでは、次の5つの内容

- ① 食品安全(食品の汚染防止、異物の混入防止など)。
- ② 環境保全(環境汚染の防止、適切な土壌管理など)。
- ③ 労働安全(危険な作業の把握、労働者の安全確保など)。
- ④ 人権保護(就業規則の作成、保険への加入など)。
- ⑤ 農場経営管理(教育訓練の実施、作業記録、外部とのコミュニケーションルールなど)。

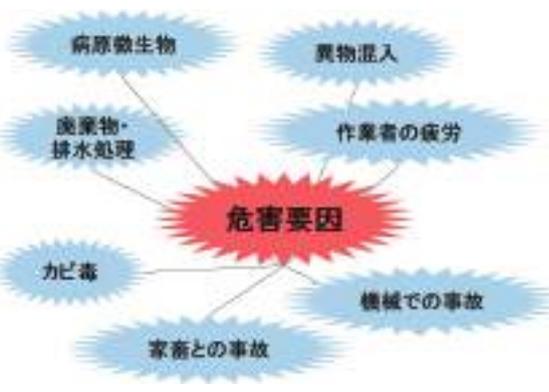


図1 危害要因の一例

例から取り組みを考えてみます

例① 食品安全

【農場への病原体の持込み及び持出しのリスクに対して】

作業者の靴・手指の消毒、畜舎内への野生鳥獣の侵入防止、出入口へ衛生管理区域であることを示す看板の設置、出入り車輛の消毒設備の設置など、取組事項やルールを作成し、確認・点検を継続しながら適宜改善していくことが必要です(図2)。



図2 リスクに対して、いつ、誰が、どのように具体的なルールを決める(写真は防疫の一例)

例② 労働安全

【牛舎内での作業中のけがのリスクに対して】

家畜に接触する作業、家畜の移動を伴う作業、作動する機器の停止方法の確認、事故発生に備えてリスクに見合う救急用品の準備、注意を要する頭上の配

管など、作業者で話し合い取組事項やルールを作成し、確認・点検を継続しながら適宜改善していくことが必要です(図3)。



図3 危険箇所の明示、緊急マニュアルの作成も一つの方法

GAPに取り組んで良かったこと

- ① 責任の明確化と相互の作業認識に役立った
 - ② みんなで話し合っってルールを作ったことで作業の改善につながった
 - ③ ミスやロスを未然に防げてリスクの軽減になった
- などの感想が聞こえてきます。全て取り組みがない場合でも、自分の農場で「よくある」、「過去にあった」というリスクの対策から取り組むのも一方法です。

JAグループ通信

平成30年北海道胆振東部地震及び台風21号により、亡くなられた方々の御冥福を心からお祈りするとともに、被災された全ての方々にお見舞いを申し上げます。この度の災害に関しまして、各連合会の取り組み内容をお伝えします。

JA北海道中央会

JAグループ北海道では、



9月6日、「平成30年北海道胆振東部地震・台風21号に係る農業団体災害対策本部」を設置し、胆振東部地震の被害に対し、緊急的に営農資材や生活物資の支援や農業関連施設の復旧に向け人的支援を実施しました。

政府・与党などに対しては、被害状況や現地で必要とする対策を迅速に伝え、ライフラインや農地・共同利用施設等の復旧、被災農業者の営農継続支援、災害に強い農山漁村づくりに向けた整備など万全の対策を求めています。

また、組合員が、安心して営農を継続できるよう、北海道電力株式会社に対し電力の安定供給ならびに万全な発電・通電体制の構築を要請しています。

JA北海道信連

JAバンク北海道では、窓

口対応として通帳等をなくされた方に対して、一定の範囲内でお支払に応じてさせていただきます。

また、被害組合員に対する相談窓口を設置し、被災された組合員が今後必要とする資金のお借入れや既往借入金のご返済等に関する相談をお受けする等、関係機関と連携を十分にとりながら金融支援対応に万全を期していきます。



JA北海道厚生連

北海道厚生連では、行政、

JA、関係機関等の協力を得て早期に診療体制の回復に向け対応いたしました。

組合員の皆さまが一日も早く平穏な生活を取り戻すことができますようお祈りいたします。



JA共済連北海道

JA共済連では、9月18日

から連日25名体制で被害調査・査定体制を組み、現地に赴き早急に調査・支払いを進め、復旧支援に努めています。一日も早い復旧を心からお祈り申し上げます。



ホクレン

ホクレンは、「北海道胆振

東部地震・台風21号対策本部」を設置し、被害にあわれた生産者の皆様の一刻も早い復旧に向け、要請に応じた人的・物的支援を含め、農畜産物の生産、貯蔵、流通の正常化に向けた活動を続けております。



今回の災害に際しましても、協同組合の力を結集し、会員JA・組合員の皆さまが一日も早く、平穏な生活を取り戻すことができますようお祈り申し上げます。ともに、ホクレンとしての役割を今後もしっかり果たしてまいります。

JAの
自動車共済
加入者向け

突然の「事故」や「故障」など
緊急時に心強いスマホアプリ!!

JA共済 くるまのミカタ

お車のトラブル時にアプリを利用すれば受付窓口へのスムーズな連絡が可能です。

1 レッカー・ロードサービスの要請 受付窓口 JA共済サポートセンター

- 1 GPS機能で位置情報を送信することができます!
 - 2 トラブル状況の画像を送信することができます!
 - 3 お車情報を自動送信します! ※ご利用時に事前登録がされていないと、お車情報はJA共済サポートセンターに通知されません。
- ➡ 必要な情報をJA共済サポートセンターに送信でき、迅速にレッカー・ロードサービスを受けられます!



2 事故受付 受付窓口 JA共済事故受付センター

- 1 GPS機能で位置情報を送信することができます!
 - 2 お車情報を自動送信します! ※ご利用時に事前登録がされていないと、お車情報はJA共済事故受付センターに通知されません。
- ➡ 必要な情報をJA共済事故受付センターに送信でき、迅速な事故受付が可能となります。

※JA共済事故受付センターにトラブル状況の画像を送信することはできません。

事故や故障が発生した際には、JA共済サポートセンターまたはJA共済事故受付センターの専門スタッフがいつでも(24時間365日)対応いたします。ぜひ、お持ちのスマートフォンにアプリをご準備ください。

※アプリご利用時の通信料は、ご利用者さまのご負担となります。

アプリのダウンロード

無料で
ダウンロード
できます。



〈アプリダウンロードはコチラから〉



くるまのミカタ

検索

※iPhone、iPad、App Storeは米国及び他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

※[Android][Google Play]はGoogle Inc.の商標または登録商標です。

※このチラシは「JA共済くるまのミカタ」の概要を説明したものです。詳細につきましては、お近くのJAにお問い合わせください。
※スマートフォン向けアプリのため、フィーチャーフォンの場合はご利用いただけません。また、お使いのスマートフォンの機種・設定等によってはご利用いただけません。
※本アプリは、JA共済の自動車共済に加入されている方向けに無料提供するものです。
※このチラシに記載している画面はイメージです。実際の画像と異なる場合があります。

■ ご注意事項

交通事情、気象状況等により、対応業者の到着に時間がかかる場合またはサービスのご提供ができない場合があります。ご利用者さまのご契約内容・トラブル状況によっては、サービスの一部または全部がご提供できない場合があります。ご利用者さまのお使いの機種および設定によっては、位置情報を必要とするサービスをご利用いただけない場合があります。アプリで提供されるGPSによる測位結果の位置情報は、利用環境やGPS衛星の電波状況により、位置が表示されない場合または実際の位置と誤差が生じる場合があります。詳細はアプリ内の「JA共済くるまのミカタ」利用規約をご確認ください。



みんなの想いをこめて

がんばろう北海道!!

当

ドドンと当たる

JAバンク北海道

抽選で
全道
合計**5,000**名様に
当たる!



©ちよリス

キャンペーン応募期間
11/1(木)▶12/28(金)

期間中、定期貯金・定期積金を一定条件のお預入で、
各種お取引をご利用中のお客さまに、
抽選で北海道のおいしさをドドンとプレゼント!

定期貯金・積金

×

最大5倍!!

各種お取引 [給与振込] [年金振込] [ネットバンク] [JAカード] [各種お借入]

でチャンス!

A賞 200名様

お肉 or お米をドドン!



※写真はイメージです

北海道産肉詰合わせ 3kg(牛・豚)
[20,000円相当]



※写真はイメージです

北海道産米1俵(60kg)
[25,000円相当]

◆応募条件 / 定期貯金[預入期間:1年以上、金額:10万円以上]、または定期積金[預入期間:1年以上、金額:12万円以上]の窓口でのお預入れ(書留含む)があり、かつ以下の対象取引①～⑤のいずれか1つ以上のご利用(新規申込含む)があると応募できます。

①給与振込 ②年金振込 ③ネットバンク ④JAカード ⑤お借入

◆抽選権 / 定期貯金は10万円毎、定期積金は12万円毎で1口とし、定期貯金・積金の口数×①～⑤の取引回数(最大5倍)が応募口数となります。

◆対象者 / 個人の方に限ります。

◆応募方法 / 窓口でお渡する応募用紙に必要事項を記入し、窓口へお持ちください。

◆当選発表 / 賞品のお届けをもって代えさせていただきます(ご案内は平成31年3月予定)。

※当選後の権利の譲渡、賞品の交換・換金には応じられません。

※今回お預入された定期貯金または定期積金を中途解約された場合は、当選の権利を失います。

全道 JA 特産品カタログギフトからドドン!

B賞 500名様



好きなJA特産品 **2品**
[7,000円相当]

※写真はイメージです

C賞 1,000名様



好きなJA特産品 **1品**
[3,500円相当]

各賞に外れた方の中から抽選で3,300名様

W チャンス

おすすめのJA特産品1品 [3,500円相当]
または農協全国商品券 [2,000円分]
ご希望のどちらかをプレゼントします。

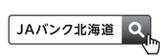
先着で
プレゼント!



kippis x CHORIS
オリジナル
マルチケース

Web限定 QUOカード2,000円分が抽選で当たる!
口座開設キャンペーン実施中

初めてJAで口座を開設のうえ、「年金」「給与振込」「口座振替」「JAネットバンク」「JAカード(発券or決済)」のうちいずれかのお取引をされたお客様が対象です。
※応募方法などは詳しくはWebをご覧ください。



JAバンク北海道
http://www.jabank-hokkaido.or.jp

平成30年北海道胆振東部地震により、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

理事会報告

9月定例理事会 平成30年9月28日(金)

報告事項

1. 専決事項及び諸会議について
2. 各委員会・諸会議等について
3. 8月末財務状況について
4. 事業の実施処理状況について
5. 理事に対する資金の貸付報告について
6. JA共済コンプライアンス点検結果について
7. 無通告監査の報告について
8. 平成30年度北海道胆振東部地震の停電による生乳廃棄状況について

- 議案第3号 融資の承認について
 議案第4号 固定資産の取得について
 議案第5号 建設委員会への委任について
 議案第6号 平成30年度下期更正計画の承認について
 議案第7号 諸規程の一部変更について

付議事項

- 議案第1号 平成30年度(第2四半期)にかかる監事監査の結果について
 議案第2号 JA全国監査機構期中監査の結果について

その他協議事項

1. 「第29回JA北海道大会」組織討議に係る組合員組織代表者会議の意見集約について
2. 第3次JA中期計画策定に係る組合員組織代表者会議の意見集約及び今後の取り組みについて
3. 秋季地区懇談会の開催について
4. 当面の業務日程について

■平成30年度	生乳生産実績(8月)			
	月計乳量(kg)	8月前年比(%)	累計乳量(kg)	累計前年比(%)
JAくしろ丹頂	8,722,734.1	105.4	43,838,135.6	104.5
鶴居地区	3,217,244.6	107.5	16,089,967.2	107.6
幌呂地区	2,264,677.5	103.1	11,334,475.7	102.0
白糠地区	1,725,449.0	101.4	8,766,239.1	100.8
音別地区	1,515,363.0	109.3	7,647,453.6	106.2
管内計	45,797,878.7	101.9	228,395,367.0	101.5
(前年度管内計)	44,943,645.8		224,974,169.5	

■平成30年度	生乳生産実績(9月)			
	月計乳量(kg)	9月前年比(%)	累計乳量(kg)	累計前年比(%)
JAくしろ丹頂	7,834,870.6	98.6	51,673,006.2	103.5
鶴居地区	2,986,212.8	103.6	19,076,180.0	107.0
幌呂地区	1,993,321.2	93.7	13,327,796.9	100.7
白糠地区	1,516,517.0	93.3	10,282,756.1	99.6
音別地区	1,338,819.6	102.0	8,986,273.2	105.5
管内計	39,339,026.2	92.4	267,734,527.1	100.1
(前年度管内計)	42,581,060.6		267,555,230.1	

信連研修生のご紹介

ちょリス
よろしく!!



JA北海道信連釧路支所
森 隆司 副調査役

鶴居本所・金融共済部に、JA北海道信連釧路支所 JAバンク推進課 森 隆司副調査役が「短期JA現地研修生」として配属となりました。短い期間ではありますがよろしくお願い致します。

JA北海道信連釧路支所の森 隆司と申します。10月15日から約2か月間に渡り研修させていただきます。金融に限らず、農協の幅広い業務を勉強させていただき、今後の業務に生かしていきたいと考えておりますので、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

□JA北海道大会へ向けた組合員組織討議が行なわれ、大会テーマである「北海道550万人と共に創る力強い農業・豊かな魅力ある農村の実現」は将来へ向けての非常に大きな目標です。その中の一つにある「食と農でつながるサポーター550万人づくりの拡充」の一環としてJA2MP(ジェイエイジャンプ)の普及推進運動を実施しております。携帯電話の無料アプリで誰でも気軽に農産物情報を見たり、美味しいものが抽選で当たったりします。食や農のサポーター(仲間・応援者づくり)を今後も進めて参りますのでよろしくお願い致します。

編集後記
EDITOR'S NOTE